

(様式第 9 号)

高槻市立第八中学校区運営協議会 会議録

会議の名称	令和 6 年度 高槻市立第八中学校区 第 3 回学校運営協議会		
会議の開催日時	令和 7 年 2 月 25 日 (火) 18:00～19:30		
会議の開催場所	高槻市立第八中学校 大会議室	公開の可否	可
担当課	教育指導課 教育総務課	傍聴者数	10 人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)	・要綱の確認 (高槻市審議会等の会議の公開に関する指針第 5 項による)		
出席委員	伊良皆 陽子、高橋 園美、土井 六三、南部 和正 山脇 和美、吉村 昌幸、竹下 守雄		
事務局出席者	(第八中学校) 松岡、山中、塩崎、磯江、高橋 (磐手小学校) 丸毛、辻岡、岩崎、田仲、岡部、沖 (奥坂小学校) 江河、石神、西川、池田、高倉		
会議の議題	1.学校の取組及び活動状況について 2.八中校区経営方針をもとにした具体の取組及び効果検証結果 3. 次年度に向けての取組および活動案		
配付資料	資料 1 配席図 資料 2 スライド資料 資料 3 具体の取組及び効果検証結果 資料 4 各校の取組 資料 5 グランドデザイン 資料 6 グランドデザイン地域・保護者用		
審議等の内容	・学校の取組及び活動状況について ・具体の取組及び効果検証結果について ・今後の予定		

(別紙)

高槻市立第八中学校区運営協議会 会議録

1. 開会	委員欠席確認 本会議の成立確認 校長 あいさつ 傍聴希望者の確認 → 委員による傍聴を許可
2. 議題 1	「学校の取組及び活動状況」について 資料 2 首席より取組及び活動状況説明 →意見・質疑応答（下記） 委員 本年度については、先生方のエイターへの意識や認知度が上がってきたのか、サポートする教科や授業が増えてきたと感じている。エイターとして参加することで子どもたちや先生方と交流する機会が増え、そこからさらに信頼関係が醸成される。子どもたちと校内で顔を合わせたら、ハイタッチや名前を呼んでももらえたり、校外でも声をかけられたりすると元気をもらえる。刺激ある 1 日なので、こういう活動が地域でどんどん広がっていけばと思う。 学校 3 年前、このコミュニティスクールを進めるにあたって悩みもたくさんあったが、まずは分かりやすい方法で地域の方に理解していただけるようなチラシや、保護者への声かけで、保護者がまた保護者を呼び、今ではたくさんのチームエイターの方が登録をしてくれている。 それと同時に、地域同士が繋がり、学校のためなら何でもしますという声をかけてもらえるのが本当にありがたく、どんどん地域の方が入ってきて子どもの教育活動を手助けしてくださる現状を考えると、3 年前に発足をして進めてきた取組は間違っていなかったと思う。
3. 議題 2	「具体の取組及び効果検証結果」について 資料 3、資料 4、資料 5 校長より説明→質疑応答（下記）

委員	4 ページの資料で、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という設問があるが、この「今住んでいる地域の行事」というのは、どういうことを想定してアンケートをとっているのか。今年度は初めて青健協の事業が1年間3つともできなかった。それを考えると、地域というのは自分の住んでいる自治会の活動なのか、地域全体の活動を指しているのか、質問が保護者にとってどういう捉え方をされているのか疑問に感じる。チームエイターの方がたくさん学校のことを応援してくださることと同時に、保護者の意識も変化し、地域活動について参加率が低いというのも仕方がないと感じる。中学生になれば、学校行事などで忙しいのに地域のクリーンキャンペーンに子どもを出すというのはやはり厳しい面がある。やり方についても地域と学校とで、時期や場所の問題について、学校から保護者の意見なども聞かせてもらえれば、地域の活動ももう少し良くなると思う。新しい人たちに参加してもらい、新しい意見をもらって活発にしていく。またチームエイターを中心として何か活動できるかどうかなども模索していくのもよい。
委員	「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という、この設問は必要なのか。以前は意義があったかと思うが、これはその地域や自治会が現在と異なる状況かと思う。この質問の項目で尋ねるとするのは疑問に思う。もう少し他の問いかけを考えて欲しい。
学校	八中校区は高槻市の中で先進的に、地域の方々と一緒に学校で子どもたちを育てていこうと、コミュニティスクールとして、どんな取り組みがやっていけるか色々模索しながらやり始めたところだ。分析結果も見ながら、この「地域コミュニティ」の項目は八中校区独自の質問項目であり、このような項目を質問すると見えてくるものがあるのではないかと考え、たくさんの項目を追加して質問している。3年経ってみると、問い方が難しいものや、そもそも質問が必要かどうかというのが見えてきたので、見直しが必要だと考える。今年、第八中学校のエイターが活性化した年だったが、小学校のエイターが中学校に来て、少しハードルが高い中でもやってみようとしてくれた結果、「やはり楽しかった」や「やって良かった」と実感し、そこから口コミで広がっていった結果だと思う。この質問は少し問い方を変えていかなければならない。
学校	この項目をずっと残し続けてきたのは、グラウンドデザインの中の「育てよう、ふるさとを愛し、みんなのために考動する子」のふるさとを愛す

	る子どもたちを育むためにはどうすればよいかということにつながっている。ふるさとの行事の中で、地域の方々と触れ合い、地域への愛着が芽生えればという願いから考えた質問で、このアンケートの項目は大事にしたい。八中校区ならではのふるさとの行事はこれからも大事にしていきたい。1年目は、小学校では55%の児童しか地域行事に参加していなかったが去年は71.3%が参加した。デイキャンプも子どもたちは楽しみにしているし、たくさんの人数が集まっていた。地域に根付いていると思うので、今後ともご協力いただけると嬉しい。
学校	八中校区ならではの地域の行事に今年初めて参加したが、保育所、幼稚園の小さい子から小学生、中学生、そして高校生までが参加して地域の方と長い時間一つの場所に関わりながら1日を楽しむという行事であった。青健協の行事も地域の方が地域で子どもたちを育てようという思いで、行事を企画し、実行していることがすごくありがたく思う。コミュニティスクールの目標の一つとして、子どもたちに地域で活躍する大人になって欲しいという思いがあるが、その思いと行事に参加することが、直接このアンケート項目だと分かりやすいが、行事に参加することがその地域を担う大人になるということに直接的に結びついているわけでもないと思うので、聞き方は少し考えた方が良いと思う。
委員	学校診断アンケートの回収率がすごく高いと思う。アンケートの取り方をどのようにしているのか教えてほしい。
学校	各学年の生徒、保護者に関しても、学年ごとに答えてもらうような形で、以前は紙媒体で子どもに届けるような形だったが、一昨年度からGoogle フォームで行っている。ライデンメールで送り、そこからフォームに入る形や、手紙にQRコード、二次元コードを記載して、それを読んでもらう。マークをするだけで答えてもらえ、何日が締め切りということも、お子さん1人につき1回の回答が必要というのも注意書きのところにも掲載している。
学校	小学校も同様のとり方をしている。最近はスマホで操作されることが多い中、ご回答いただけるような形にしている。
委員	感想になるが、3ページの「人が困っているときは進んで助けていますか」という項目で、肯定的な回答が得られていた。また、7ページの

	「共生」のところで、「あなたの学級は、友達が困っているときに助け合っていますか」というのも 93%、87%ととても高い数値が得られた。「チャレンジ」のところでは、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか」ということも、数字が上がっていると感じる。人が困っているときに助けてあげる、他者に寄り添い、手を差し伸べる優しさや思いやりが変化してきていると思う。自分が困るときが人生の中で必ずある。自分が困ったときに、まわりの人に助けてといえる人に育って欲しい。人が困っているときに助けられる子になっているということは、自分も助けてといえれば誰かが助けてくれるかもしれないという気持ちを育てているのではないか。良い傾向にあると、嬉しく思いアンケートを読んだ。 コミュニティスクールの認知度が低いことについては、以前、保護者が学校評議員会のことを知らなかったように、学校運営協議会も、チームエイターという実際に活動している人のことは知っていても、コミュニティスクールの組織の中のものとして活動していることを認識するのは難しいのではないか。コミュニティスクールを知らなくても、チームエイターとして関わることを知ったり、自分が携わったりすることで十分だと思う。ライデンメールでチームエイターに協力を依頼する方法については、登録者が多く良い方法だと思う。
学校	今日欠席の近藤委員からご意見をいただいたので紹介する。1点目は、「家庭で計画を立てて勉強をしている」という回答の割合が伸び悩んでいることに対し、児童生徒の塾や習い事の時間がどれくらいあるかを把握し、そもそも勉強する時間がきちんとあるかどうかを調査してみるのがよいのではないかとのご意見をいただいた。 2点目は、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか」や、「新しいことに挑戦するのが好きだ」という項目があるが、「今、何にチャレンジしていますか」というような記述で答える質問にすることで、チャレンジしている様子が他の子にも広まるように、問いを工夫してみるのも良い。 分析調査の結果を出す際には、小学校1年生から中学校3年まででは意識が全く違う中、それを相対した校区の評価として数値で出しているもので、何かの項目において、どこかの学年の経年を比較してみるのも参考になるのではないかとのご意見もいただいた。
委員	小学校は、アンケートは1年生も6年生も同じ項目なのか。

学校	はい。
委員	質問の内容がよくわからないと、「わからない」につけるのも増えてくるのかもしれない。低学年と高学年を分けてはどうか。項目が多過ぎても途中で飽きて最後のほうは投げ出してしまう。これは保護者にしても同じで、最後のほうが「わからない」の回答が増えたりするのではないか。項目も凝縮してみてはどうか。
委員	コミュニティスクールは、今年、市内全中学校区で行われる。今までは教育委員会のコミュニティスクール事業だったが、今後は高槻市全体の事業だと思う。だから全市的な市の施策として、大々的に取り組んでいく必要があるのではないか。八中校区の場合は、磐手公民館や奥坂コミュニティセンターがあるので、ここを媒体としながら事業展開をして広げていくことができると思う。校外学習として、子どもたちが公民館やコミュニティセンターに出向いて、利用者から昔の遊びなどを教えてもらい、そのお返しに学校で学んできたこと、例えば学習発表会のようなことをその場で行い、学校と関わりのない人たちにも関心を持ってもらい相互の交流を進める、こうしたことを全市的に広げていくことも重要ではないか。
4. 議題3	今後の活動予定について 次回の連絡、令和7年度第1回学校運営協議会5月中旬18時を予定。
5. 閉会	学校より閉会における謝辞